

I 研究主題について

1 研究主題

「御船中学校版「熊本の学び」による学力の向上～SMARTを意識した教育実践を通して～」

2 研究主題設定の理由

(1) 学校教育目標の具現化を図るために

本校の教育目標は「ふるさとに誇りをもち、夢の実現に向けて共に努力する生徒の育成」である。学校教育目標の具現化のために「学力の向上」は大きな重点事項であり、学校総体で取り組んでいかなければならない。昨年度の県学力・学習状況調査 i-check では次のような生徒の実態が見られた。

(資料1)

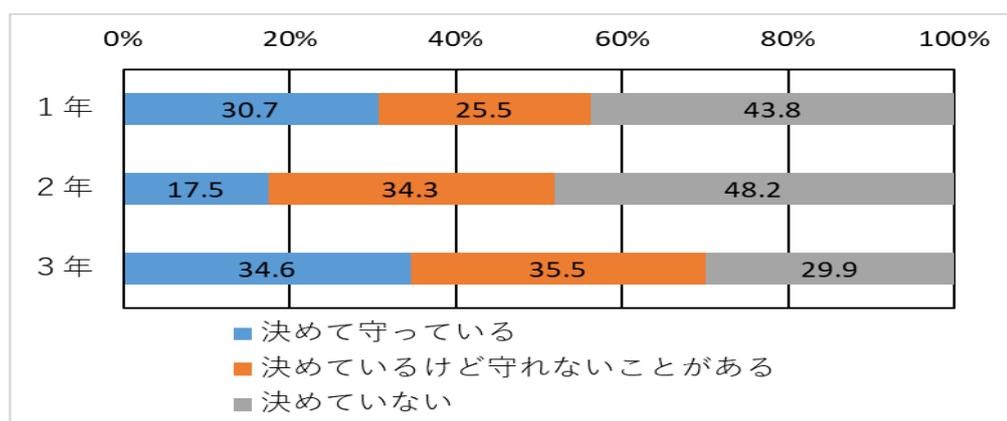
項目	本校 現2年	県平均 現2年	本校 現3年	県平均 現3年
○「あなたの今の、1番目のなやみごとは何ですか。」に対し、「勉強のこと」と回答した生徒	45.3%	33.1%	49.5%	38.4%
○「最近、学校の勉強がむずかしくなったな、と感じることがありますか。」に対し、「分からないことが出てきた」と回答した生徒	40.3%	26.9%	36.7%	33.2%
○「最近、学校の勉強がむずかしくなったな、と感じることがありますか。」に対し、「分からないままのことが多い」と回答した生徒	25.9%	8.2%	28.4%	13.7%

[資料1 令和元年度 県学力・学習状況調査 i-check より]

以上のことより、本校の生徒は、勉強のことについてどのように取り組めば良いか悩む生徒が多く、分からないことがあった場合、その解決方法が分からず、そのまましておく生徒が多いことが分かる。このような状態では学習に対して、「分かった」、「できた」という喜びも味わえず、ひいては学習意欲の低下を招いていることは十分に分かる。

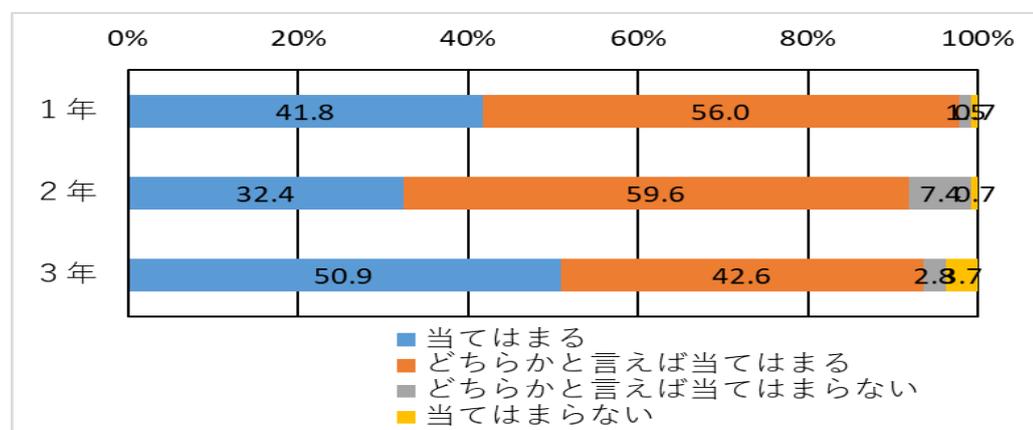
以上の事柄を踏まえ、生徒が分からないことをそのままにせず、意欲的に学習に取り組むためにも、また、学校目標具現化のためにも、生徒自ら単元のゴールや課題解決のために必要な手立てを講じ、自力解決や協働解決の場を通して、学びを確認する取組が必要であると考えます。

また、6月に全校生徒に実施したアンケート（資料2）では、過半数以上の生徒が家庭学習を始める時刻が定まっていないことが分かる。そこで、授業以外の場面においても、学力向上に向けた取組が必要であると考えます。



[資料2 家庭学習を始める時刻を決めていますか（令和2年6月25日実施）]

さらに、6月に全校生徒に実施したアンケート（資料3）では、90%以上の生徒が御船中学校の生徒で良かったと思っていると回答しているが、全ての学年に「どちらかと言えば当てはまらない」、「当てはまらない」と回答する生徒がいることが分かる。そこで、教育活動において、生徒の自尊感情を高め、学習意欲の向上を促す取組が必要であると考えます。



[資料3 御船中の生徒で良かったと思いますか（令和2年6月25日実施）]

(2) 社会の要請から

本校では、一昨年度から学力向上プロジェクト研究「熊本の学び」の研究指定校として、新学習指導要領の全面実施に向けた研究を行ってきた。熊本県は本年度から「熊本の学び」の取組が始まり、熊本県教育委員会もそれぞれの学校及び地域の実態に応じた「熊本の学び」の推進を求めている。本研究は昨年度までの研究をさらに深め、御船中学校の実態に応じた教育実践を行い、熊本県の方針に沿うものである。そこで研究主題を『御船中学校版「熊本の学び」による学力の向上』とする。

(3) 研究主題の捉え方

本研究で述べる「学力」とは、学校教育法第30条2「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」の規定に沿うものである。

また、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」においては、①知識・技能の習得、②思考力・判断力・表現力等の育成、③学びに向かう力・人間性等の3つを学力の要素としており、本研究では、以上の3要素を『御船中学校版「熊本の学び」』を通して、向上させるものである。

本研究は、全校生徒に対して行うアンケートをもって研究の成果とする。

II 研究の方法

1 研究の仮説

- (1) 授業において、①「分かりやすい指示や発問（シンプル＝S）」、②「生徒と共有した『めあて』の設定（目的・目標＝M）」、③「自力解決と協働解決の場の設定（アクティブ）＝A」、④「定着を図る時間の確保（練習＝R）」、⑤「問い方を工夫したまとめ・振り返り（たしかめ＝T）」のSMARTを意識した授業を行えば、生徒は「何が分かればよいのか」、「何ができればよいのか」が明確になり、学ぶ意欲の向上につながるだろう。（資料4）

御船中版「熊本の学び」 SMARTな授業実践

S	シンプル	わかりやすい指示や説明（簡潔に、視覚で捉えやすく）をする。
M	目的・目標	「何が分ればよいのか」「何が出来ればよいのか」を明確にして“めあて”を示す。単元のゴールの姿を設定しよう。
A	アクティブ	生徒が活動する時間を確保する。教師がしゃべりすぎない。
R	練習	定着を図る時間を確保したり、小テストを実施したりする。
T	たしかめ	共通のノートである板書をもとに本時の学習を振り返ったり、ポイントをもとに学習のまとめをしたりする。



M 本時に「〇〇ができる（～がわかる＝～を説明できる）」が明確な『めあて』の提示

『めあて』を目に見える活動の表記にして、生徒と目指す姿を共有しよう！

※『めあて』とは、50分の授業が終わったときに目指す生徒の姿（目標）です。学習課題や問題提示、発問とは区別します。

▲ どうして「走れメロス」と題をつけたのだろうか（国語）

▲ 鎌倉時代の武士と民衆の生活の特色がわかる（を調べよう）（社会）

After

○ タイトルに込められた作者の思いを原作との違いを根拠に書くことができる（国語）

○ 鎌倉時代の武士と民衆の生活の特色を双方の違いや以前の生活との違いを明確にして説明できる。（社会）

◇ 『めあて』カードを使い、黄色チョークで枠囲みましょう。

◇ 教師が一方向的に『めあて』を提示するのではなく、前時の振り返りや生徒の気づきやつまづきを生かして、生徒の「わくわく」が連続する『めあて』の設定へ導きましょう。

A 全員の「やってみよう」「なるほど」が生まれる“自力解決”と対話的で深い学びが生まれる“協働解決”の場の設定

見通しをもった“自力解決”にしよう！
必要性・手段を明確にした“協働解決”にしよう！

※『見通し』とは、解決の方法や手順を自分なりにイメージすることです。

※『必要性・手段』とは、何のためにペアやグループ活動をするのか、何について話し合ったり協力したりするのか、どのような方法・役割で活動したりするのかということです。

▲ 見通しをもたない生徒がいるのに、自力解決の時間を長くとり、個別指導でヒントを出す（自力解決にならない）

After

○ 互いの気づきや解決の方針を出し合い、解決方法や手順を可視化して自力解決の時間を設ける

- (2) 授業以外の場において、工夫ある「自力解決と協働解決の場の設定」と「定着を図る時間の確保」を行えば、学習習慣と基礎学力の定着につながるだろう。
- (3) 教育活動において、基本的な生活習慣の確立や達成感を味わう取組を行えば、生徒の自尊感情が高まり、物事に粘り強く取り組むようになり、学習の意欲も向上するだろう。

2 研究の視点

(1) 仮説(1)について(授業づくり部会)

① 1時間単位の授業づくり

- ア 視覚化の工夫を通して、分かりやすい指示や説明を行う。
- イ めあてや単元ゴールの設定に、見える活動の表記を行うことで、生徒と共有した「めあて」を設定する。
- ウ 「なるほど」「やってみよう」が生まれる自力解決の場の設定や対話的で深い学びが生まれる協働解決の場の設定を行う。
- エ 反復学習や演習の実施し、定着を図る時間の確保を行う。
- オ 生徒自らの振り返りで学びに気づく問い方を通して、「まとめ・振り返り」を行う。

② 授業の基本的姿勢について

- ア 立腰の姿勢について

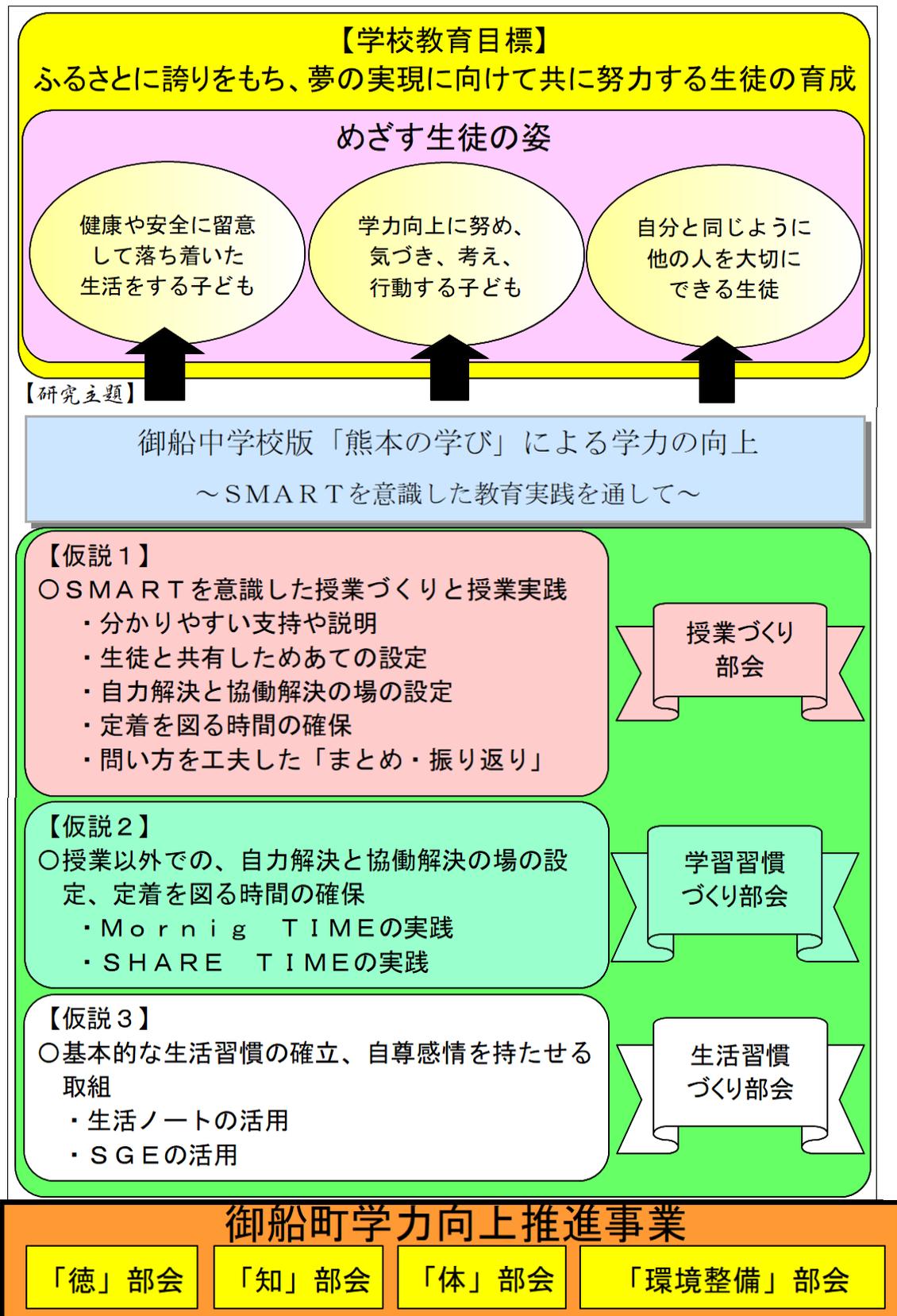
(2) 仮説(2)について(学習習慣づくり部会)

- ① Morning Timeを行い、自力解決と協働解決の場を設定する。
- ② Share Timeを行い、定着を図る時間を確保する。

(3) 仮説(3)について(生活習慣づくり部会)

- ① 生活ノートを活用し、基本的な生活習慣の確立を促す。
- ② SGEを活用し、自尊感情をもたせる取組を行う。

3 研究の構想



Ⅲ 研究の内容

1 SMARTを意識した授業づくりと授業実践

(1) SMARTを意識した授業づくり

全教員がS・M・A・R・Tのグループのいずれかに所属し、5月に校内研修において、それぞれのグループの中で共通実践事項を検討した。(図1・2) 検討した結果、年度を通して、各グループで次の取組を授業の中で行うこととなった。(資料5)



図1

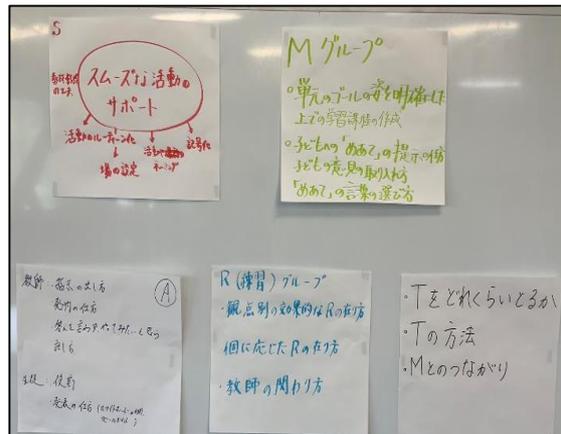


図2

- Sのグループでは、スムーズな活動のサポートのために、教材の工夫、活動のルーティーン化、活動のネーミング、記号化を行う。
- Mのグループでは、単元のゴールの姿を明確にした上での学習過程の作成、生徒の意見を取り入れるなどの工夫のあるめあての提示を行う。
- Aのグループでは、教師の話を簡潔で明確にすることで、生徒の活動の時間を増やす。
- Rのグループでは、観点別の効果的な練習、個に応じた練習、教師の関わり方を実践する。
- Tのグループでは、『たしかめ』の時間の確保、生徒の発言を生かした『たしかめ』の工夫、めあてとのつながりに取り組む。

[資料5 SMARTな授業実践の年間取組事項]

(2) SMARTを意識した授業実践について

校内研修において、SMARTを意識した研究授業を7月、9月、11月にそれぞれ行った。また、研究授業後には授業検討を行い、共通理解を図った。そして、通常の授業でもSMARTの視点を意識した授業実践を行った。

① S（シンプル）における授業実践

S（シンプル）における授業実践では、メニューボードで活動の流れや解き方を示すことで、自力で解くことへの意欲を高めること、取り組む活動に注視できるようにすることなどに取り組んだ。（特別支援教育、図3・4）



図3

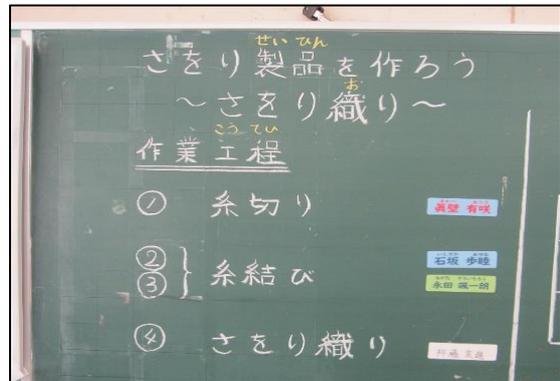


図4

② M（目的・目標）における授業実践

M（目的・目標）における授業実践では、単元のめあてや単元計画を初めの時間に提示することで、単元の見通しを持たせたり、意欲を高めたりすること（国語、図5）、題材のめあてを生徒と共有し、生徒が単元を通じて課題意識を持ち続け、学びに向かう力を高められるようにすること（美術、図6）などに取り組んだ。



図5



図6

③ A (アクティブ) における授業実践

A (アクティブ) における授業実践では、自分の書いた四季感が他の人のヒントになることを伝え、自分の書いたものが活かされることを知り、意欲的に四季感を書けるようにすること (国語、図7)、グループ内や他のグループとの交流を通して、自分の考えを広げる活動を取り入れること、全身を映すために必要な鏡の大きさについての作図を行い、見通しを持った上で実験を行うこと、役割分担を明確にし、全員が実験に参加できるようにすること (理科、図8) などに取り組んだ。



図7



図8

④ R (練習) における授業実践

R (練習) における授業実践では、10級から1級の練習問題を解かせ、例題を参考にしながら方程式を解かせること、進行が遅い生徒を進行の早い生徒が支援するような仕掛けを入れること (数学、図9)、動名詞、動詞+形容詞、動詞+人+もの、の問題を解いていく中で言語材料の構造に気づき、定着を図ること (英語、図10) などに取り組んだ。



図9

PROGRAM 6 (to + 動詞の原形 @ ~ するために / して)
 class () No. () Name ()

1. [] 内の語と適語物にしつ _____ に答えを書きなさい。
 (1) 今日は本を買いのためにここへ行きました。
 Kyoko went there [buy] a book. _____
 (2) あねに会えてうれしかったです。
 I am glad [see] you. _____
 (3) 私は宿題をするために早く起きました。
 I got up early [do] my homework. _____

2. [] 内の語句を並べかえなさい。全文書きなさい。
 (1) 彼は その知らせを聞いて悲しかったです。
 He [hear / was / the news / to / sad / .] _____
 (2) 彼女は 毎朝 走るために、早起きをする。(早起きして走る)
 Poes [get up / to / early / / run / she] every morning? _____
 (3) リサは 中国語を勉強するために上海へ行きました。(1つ不要)
 Lisa [Shanghai / study / want to / went to / to] Chinese. _____
 (4) 私はあなたを「愛してる」と言ふために電話をしました。
 [to / love / I / you / called / just / I / say / .] _____

※ 全問正解まで何度も解く。 正解数 / 9

図10

⑤ T（たしかめ）における授業実践

T（たしかめ）における授業実践では、合唱を録音し、生徒たちの歌声の変容を実感させること、毎時間の授業後に振り返りカードに記入させること（音楽、図11）、授業の終末で、本時で分かったことを「まとめ」として記入させること、穴埋めの形式で板書するなど、生徒が書くための手立てを行うこと、「まとめ」を隣の生徒や班で共有し、学習内容の理解を深めること（社会、図12）などに取り組んだ。



図11



図12

(3) 授業の基本的姿勢について

SMARTな授業実践を進めていく上で、授業のスタイルは確立されつつあるが、さらにそれが効果的なものとなり、生徒の関心を高めるためには、授業を受ける基本的な姿勢を確立することが大切であることに気づいた。そこで、授業づくり部会では、本校全体で統一した「学ぶ姿勢」を示すこととした。(図13) また、教師が「立腰の姿勢を整えてください」などの声かけを学級や集会で行うことで、生徒たちの学ぶ姿勢を整えた。



図13

(学級掲示した立腰の図)

2 自力解決及び協働解決の場の設定と定着を図る時間の確保について

(1) 自力解決及び協働解決の場の設定について

自力解決や国語力の基礎・基本の定着の観点から、毎週月曜日、水曜日、金曜日に朝読書の取組を行った。生徒たちは前日までに読む本を準備し、10分間読書に取り組んだ。また、日替わりで朝読書の時間に図書室を開放し、学級ごとに図書室で朝読書に取り組んだ。(図14)



図14

朝学習の取組も行った。毎週金曜日に週末課題としてプリントが配られ、解いたプリントを月曜日に提出する。提出されたプリントは火曜日と木曜日に再配付され、班で話し合ったり、教え合ったりなどの課題の協働解決の場を設定した。また、班内での話し合いが活発にならない場合は班員2名が他の班へ移動して話を聞き、自分たちの班に説明を行うことで、話し合いや教え合いの活性化を促した。(図15)



図15

らない場合は班員2名が他の班へ移動して話を聞き、自分たちの班に説明を行うことで、話し合いや教え合いの活性化を促した。(図15)

(2) 定着を図る時間の確保について

各学級の班内で自主学习ノートを見せ合い、コメントやアドバイスを送ることで、学習した内容の定着を図る時間を確保し、自主学习ノートの質をさらに高めることを目的とした。(図16) 毎日の自主学习には「日付」と「取り組んだ時間」



図16

を記入し、学習内容の定着に効果の高い自主学習をしている生徒のノートは学級全体に紹介し、掲示するなどの取組も行った。(図17)

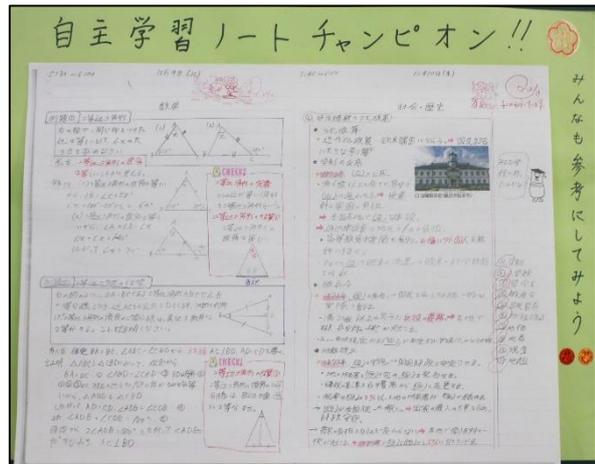


図17

3 基本的な生活習慣の確立と自尊感情をもたせる取組について

(1) 基本的な生活習慣の確立について

保健委員会は自己の生活習慣を振り返らせ、改善を促すために生活習慣振り返りカードを作成し、全校生徒一人一人が記入した。記入した項目は家庭学習の時間、就寝時間、SNSやゲームなどの電子機器の使用時間であった。また、保護者からのコメント欄も設け、家庭での過ごした方について保護者からもコメントをもらい、家庭でも生徒の生活習慣を把握してもらうよう努めた。

生活習慣づくり部会では、生活ノートを活用した家庭学習開始時間の設定に取り組んだ。生活ノートとは、御船中学校の生徒が翌日の時間割などを記入するノートのことである。生徒は帰りの会で生活ノートを記入する際、その日の家庭学習開始時刻と学習内容を記入する。家庭で生徒が日記を書く際に、事前に記入した家庭学習開始時刻と学習内容が達成できたか、メディアの使用時間などを振り返る。翌日、学級へ提出し、担任や副担任が達成度を確認し、指導に生かした。(図18)

今週の記録 (11月9日 ~ 月 日)												
	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	スタート時刻	学習内容	メディア使用時間
月曜	学校	△	○	1時間								
火曜	学校	△	○	25時間								
水曜	学校	△	○	25時間								
木曜	学校			時間								
金曜												時間

日	時	教科	準備物・内容等	今日の家庭学習スタート目標 (20)時(00)分	学習内容
十月	1	理科	教科書、トランプ	英語	英語
十月	2	国語	教科書、トランプ	英語	英語
九月	3	英語	教科書、トランプ	日記 今日部活に行く	日記 今日部活に行く
九月	4	保健	教科書、トランプ	私か何かを仲良く	私か何かを仲良く
九月	5	総合	人権学習	ふたつの子が来てみて	ふたつの子が来てみて
九月	6	美術	教科書、トランプ	久々に話せるので	久々に話せるので
メモ			ペンキ		描かなくて

日	時	教科	準備物・内容等	今日の家庭学習スタート目標 (21)時(00)分	学習内容
十月	1	数学	対頂角	理科	理科
十月	2	国語	教科書、トランプ	理科	理科
十月	3	理科	教科書、トランプ	日記 今日、湊が家の	日記 今日、湊が家の
十月	4	音楽	教科書、トランプ	白を讀んで来た	白を讀んで来た
十月	5	社会	歴史の教科書、トランプ	私、面白く、いっしょに	私、面白く、いっしょに
十月	6	総合	人権学習	時間かた、トランプ	時間かた、トランプ
メモ				早く読みなして	早く読みなして

図18

(2) 自尊感情をもたせる取組について

生活習慣づくり部会の提案で朝の会や帰りの会において、互いの良さを認め合うようなSGEを定期的に取り入れることで、自尊感情を高めた。(図19)また、各クラスにおいて、行事ごとに次の手順で「Xさんからの手紙」の取組も行った。(資料6)

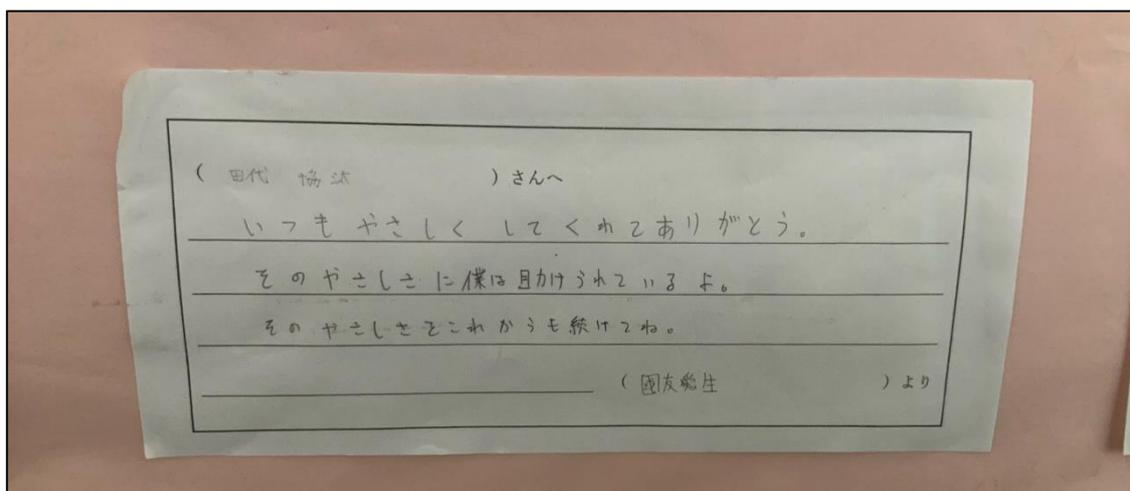


図19

① 名前の書かれた用紙を受け取る。

※誰の用紙を持っているかは他の人にはわからないようにする。

② 名前を見て、その人に手紙を書く。その際、自分の名前は書かない。

(手紙の例文)

私はあなたのことを〇〇な人だと思います。

なぜならあなたが〇〇しているところを見たからです。

その時、私は〇〇と思いました。

これからも、お互い充実した学校生活を過ごしましょう。

差出人Xより

③ 用意された封筒に記入した手紙を入れる。

④ 係の生徒が宛名の本人に手紙を渡し、本人は内容を読む。

⑤ シェアリングを班で行う。

資料6

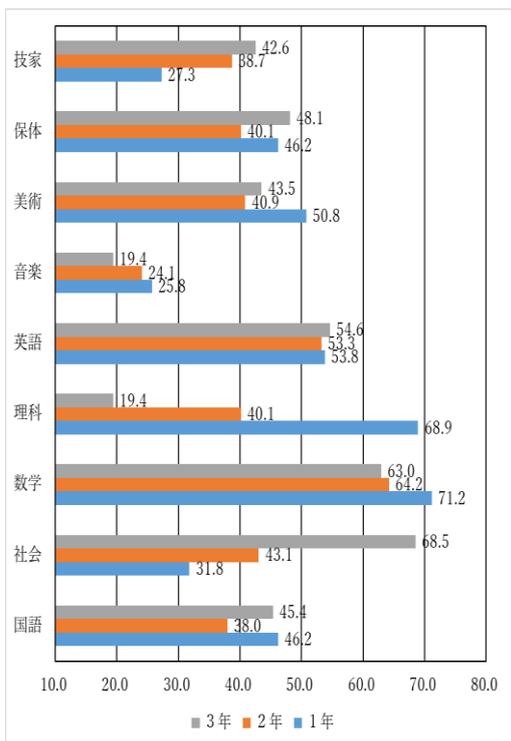
IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 仮説(1)に関する成果

SMARTを意識した授業実践について、生徒に『1時間の授業ごとに「できた」「わかった」「ためになった」と感じることを、いつもできていると思う教科に○をしてください』というアンケートを行った。(資料7・資料8)

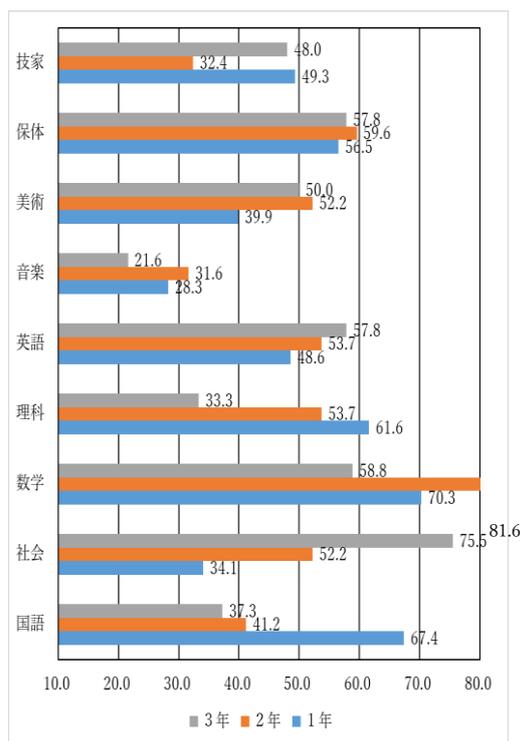
結果として、6月と11月のアンケート結果を比較すると、多くの教科で6月のアンケートの数値が11月では増加傾向であることがわかる。特に、2年生の数学、社会、1年生の国語では約10%以上大きく増加していることがわかる。これは、SMARTを意識した授業実践を行うことが、「できた」「わかった」「ためになった」と感じる生徒を増やす一因であると考えられる。



1時間の授業ごとに「できた」「わかった」「ためになった」と感じることを、いつもできていると思う教科

(令和2年6月25日実施)

資料7



1時間の授業ごとに「できた」「わかった」「ためになった」と感じることを、いつもできていると思う教科

(令和2年11月26日実施)

資料8

(2) 仮説(2)に関する成果

生徒アンケートからは下の資料のようなこともわかった。(資料9)『1時間の授業ごとに「できた」「わかった」「ためになった」と感じる事が、いつもできていると思う教科に○をしてください』という質問に対し、数値が上昇した教科がある。これらの教科について、授業づくりはもちろんであるが、次のような生徒の感想が見られた。(資料10・資料11・資料12)

観点	6月	11月
1年生国語	46.2%	67.4%
2年生数学	64.2%	81.6%
3年生社会	68.5%	75.5%

資料9

モーニングタイムで読書をするようになって、今まで嫌々本を読んでいただけ、毎日少しずつ読むと自分にでも読めると思うようになって、読書が楽しみになりました。すると、不思議と国語の時間も楽しくなり、文章を読むのが少し得意になりました。(1年生男子生徒)

資料10

朝学習の数学の時間に友だちと少しでも教え合って、1問でも解けると朝から学習にやる気が出ました。ちょっとずつですが、数学は分かるようになりました。(2年生女子生徒)

資料11

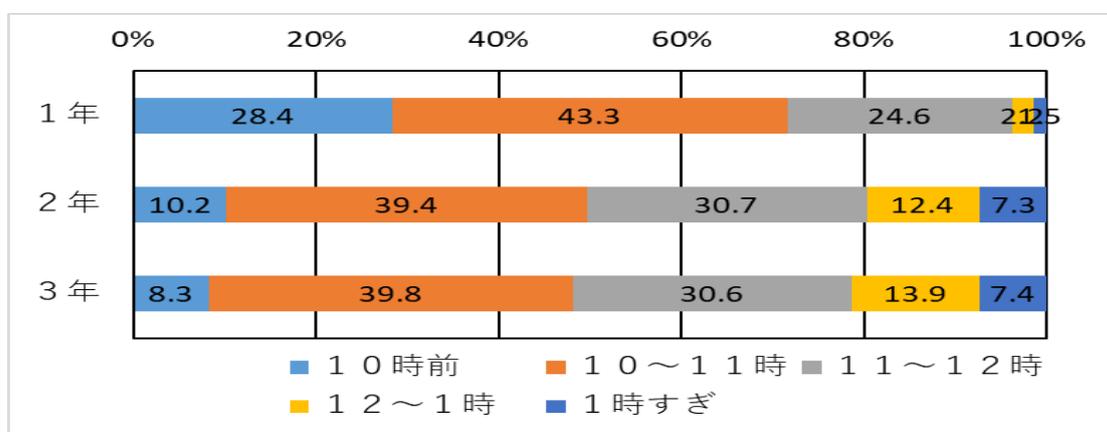
放課後の時間に友だちの自習学習ノートを見るのはとても良いです。正直、同じ漢字や英語ばかりを僕は写していました。でも社会の用語まとめに線を引いたりして工夫したり、ノートを半分に分けている人のやり方を見て、僕もやってみようと思いました。(3年生男子生徒)

資料12

これらのことから、Morning TimeやShare Timeの取組が生徒たちに少しずつ浸透し、生徒の学習習慣や基礎学力の定着につながっていることが分かる。まだ全ての教科にそれが反映されているとは言えないが、継続していくことで、かなりの成果があると考えられる。

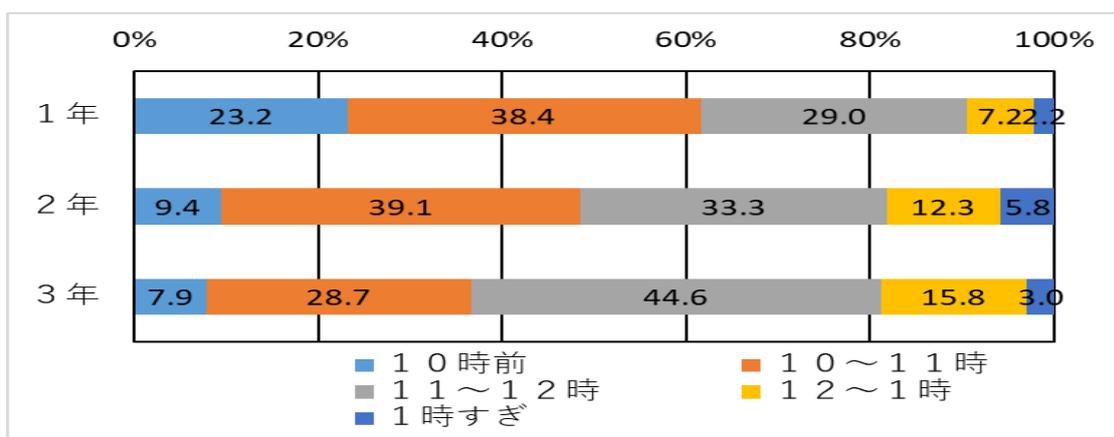
(3) 仮説(3)に関する成果

生徒アンケートの「昨日、何時に寝ましたか」の6月と11月を比較すると、大幅に就寝時間が早まったという結果は見られていない。(資料13・資料14)しかし、1時過ぎに就寝する生徒の割合が減少したり、生徒の記述からは次のような変化が見られたりしている。(資料15・資料16)



昨日、何時に寝ましたか (令和2年6月25日実施)

資料13



昨日、何時に寝ましたか (令和2年11月26日実施)

資料14

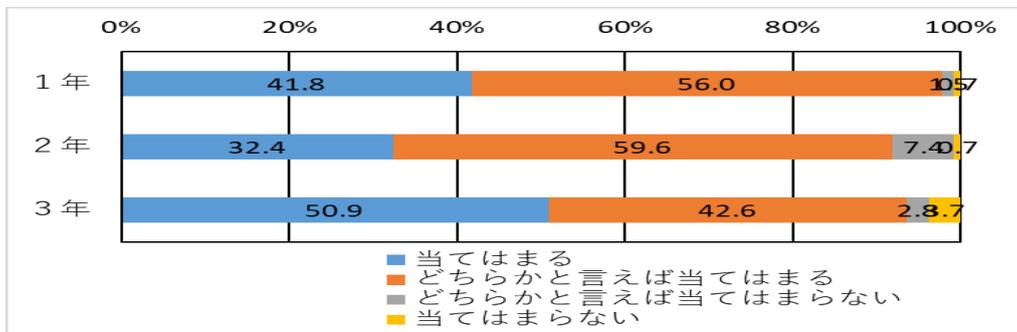
生活ノートに学習時間をきちんと書くようにしました。僕は、スマホを触っている時間が長かったり、寝る時間が遅かったりしました。だから、毎日きちんとノートに書いて、生活に気をつけるようにしたいです。(1年生男子生徒)

資料15

勉強だったら何時まででもいいやと思って、1時過ぎまでやっていました。でも、生活ノートに学習時間を書いてみると、意外にだらだらやって、途中でテレビを見たり、スマホを触っていたりしていました。学習時間を3時間と決めて、12月からは12時前に寝るようにします。(3年生女子生徒)

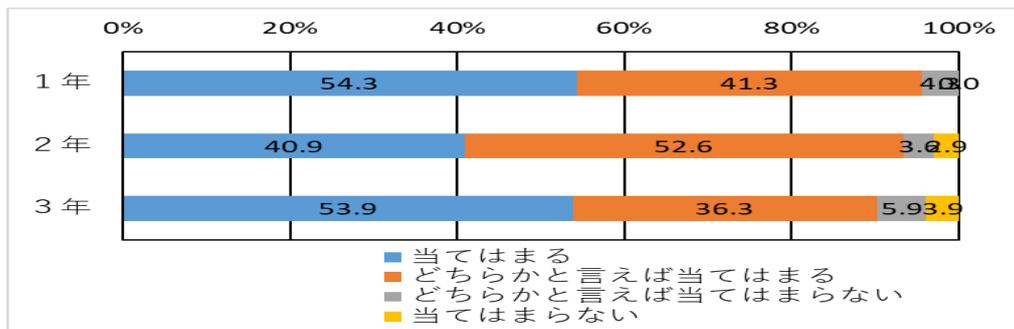
資料16

生活ノートに学習時間や就寝時刻を記録し、教員が確認や評価をすることで、生徒の生活改善につながっている。今後は、単に就寝時刻が早まることだけを目的にせず、計画的な家庭学習の実践と合わせて、取り組んでいきたい。また、他の生徒アンケートでは次のような結果も分かった。(資料17・資料18)



御船中の生徒で良かったとおもいますか (令和2年6月25日実施)

資料17



御船中の生徒で良かったとおもいますか (令和2年11月26日実施) 資料18

御船中学校の生徒で良かったと思う生徒の割合が、どの学年も9割を超え、高い数値を示した。これは機会のあるごとにSGEに取り組んだ効果が出ていると思われる。特に行事ごとに行った「Xさんからの手紙」は大変効果があることが生徒の記述評価からも伺える。(資料19)

今日はXさんの手紙をやりました。自分には良いところ無いと思ってたけど、誰かが「〇〇さんのおかげで、合唱コンクール金賞取れたよ。ありがとう」と書いてくれました。誰か分からないけど、私も少し役に立ったかなと思ったら、嬉しくなったり、学校が前より好きになりました。(1年生女子生徒)

資料19

SGEを定期的に行っていくことで、生徒が自分の良さに気づき、ひいてはそれが自尊感情を高めるのに、効果があると考えます。今後も効果のあるものを模索していきたい。

2 課題と今後の志向

(1) 仮説(1)について

生徒アンケートの『1時間の授業ごとに「できた」「わかった」「ためになった」と感じるものが、いつもできていると思う教科に○をしてください』の項目において、多くの教科で増加傾向にあったが、過半数を超えない教科や減少傾向にある教科もあった。学習内容や教科の特性にもよるが、増加傾向に転じるよう、互いの授業を参観するなどし、改善に努めたいと思う。SMARTな授業実践を行う中で、「もっと〇〇した方が良い」、「授業を行っていて、〇〇の活動を取り入れると良かったと感じた」など、職員が授業について議論することもあり、SMARTな授業実践はさらに改善することができると思う。また、前学年や前単元の段階において、生徒が学習内容につまずきを感じており、いつも「できた」「わかった」「ためになった」と感じられないと感想を述べる生徒もいた。授業実践は改善しつつ、継続して行うが、個別指導を行い、生徒のつまずきを取り除く必要があると思う。今後の志向として、授業の中や授業以外の場面における個別指導の在り方も学校全体で検討していきたい。

(2) 仮説 (2) について

次のような生徒の感想もあるので、今後の取組を注意していきたい。(資料20)

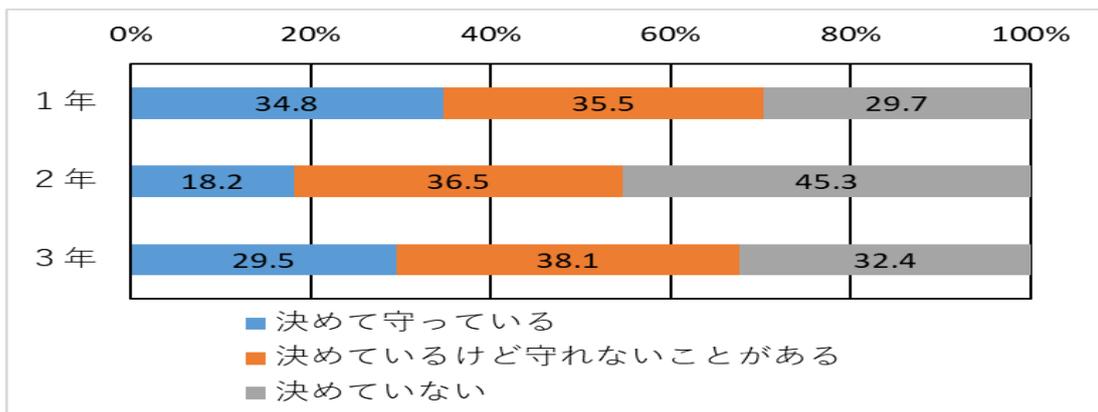
朝も放課後も学習はとても良いけど、同じやり方が続くと正直飽きてきます。また、友だち同士で教え合っても、分からないときは止まってしまいます。それなら、思い切って全部読書が良いです。(2年生男子生徒)

資料20

今年度はやり方にこだわった感があり、生徒の様子と実際の定着度合いを見ながら、様々なやり方に取り組んでいかなければならない。また、資料20の生徒の感想を受け、校内研修の中で検討した結果、朝の学習において、全ての時間を教え合いや話合いの活動にあてるのではなく、教師からの短時間の解説や助言を聞いた後に、生徒同士で話し合うことで、より深い自力解決と協働解決につながるのではないかと考え、実践を行っている段階である。

(3) 仮説 (3) について

家庭学習の開始時刻を決めている生徒と決めていないが実行できていない生徒の割合が少ないことである。(資料21) 生徒からは次のような意見が挙げられた。(資料22)



家庭学習を始める時刻を決めていますか (令和2年11月26日実施)

資料21

月曜日は塾があります。火曜日は何もありませんが、見たいテレビがあります。曜日によって、開始時刻が変わっても良いですか？決めてもそれ通りにできないことが多く、毎日変わっても良いですか？（2年生女子生徒）

資料 2 2

生徒の生活や家庭の事情に合わせた「自分にできる計画」を立てさせる必要がある。また、自分の弱い気持ちに負けず、強い意志を持って家庭学習に取り組む姿勢づくりには、まだまだ研究が必要である。また、資料 2 2 の生徒の意見を受けて、用事のある日の場合と用事のない日の場合の家庭学習の開始時間を設定し、振り返りを行うよう全校生徒に周知している。そして、教師が生活ノートを確認し、家庭学習の開始時間について個別に面談を行う予定である。年度末に 6 月、11 月に行った生徒アンケートを行うが、アンケートの数値が増加することを期待している。